

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-112	小学校	国語科	国語	4
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 401・402	新しい国語 四上・新しい国語 四下		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

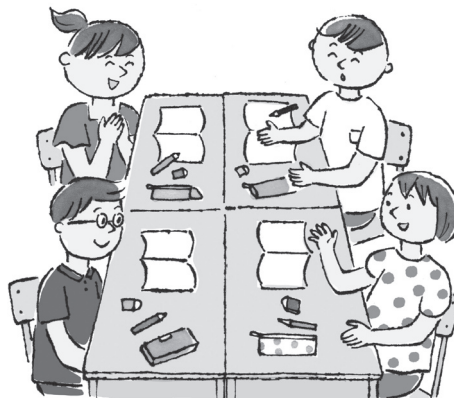
児童は、言葉で思い、言葉で考え、言葉で表現します。

人や社会、自然と言葉でつながり、
自らの世界を広げていきます。

「言葉の力」は、児童の生きる力そのものです。

この教科書は、児童が国語を豊かに学ぶことを通じて、
未来を拓く基盤となる

確かな「言葉の力」を身に付けることを目指し、
以下の3点を柱として編集されています。



特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、
友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

特色

2

「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」を身に付ける
とともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

特色

3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感する
とともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

1. 「頑張りたい」ことを明確にして、主体的に学習に取り組む。

- 学習を見通す際に大切なのは、自分がどんなことを頑張って学習に取り組むかを明らかにすることだと考えました。児童が自分自身のめあてを持つことによって、成長への意思を持って主体的に学習に取り組むようになりました。

一年間の学習でがんばりたいこと（上9）

1年間の学習を見通したうえで、4年生の学習で楽しみなこと、頑張ることができるようになりたいことを友達と伝え合います。1年間の学習のめあてを持つよう促し、成長への願いや期待を引き出します。

また、夏休み前と冬休み前には、「これまでの学習をふり返って」（上109, 下71）を設けています。学習の成果を確かめるとともに、今後への課題を見だし、めあてを新たにすることを意図しています。（単元での取り組みは、本趣意書 p6 をご覧ください。）

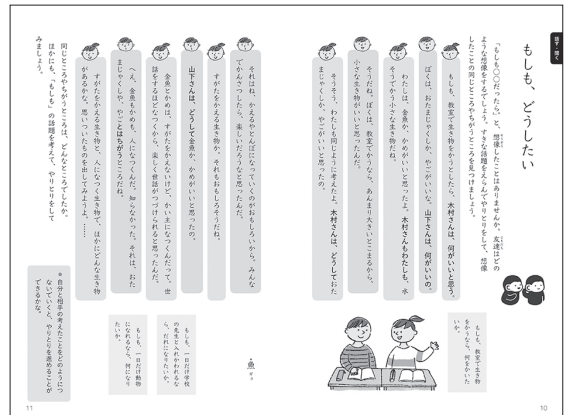


2. 対話的な学びを通じて、共に伸びる。

- 「みんなで楽しく学ぶ」ことで、友達と共に成長したいという思いを引き出したいと考えました。協働して課題に取り組んだり、互いの考えを共有して深め合ったりしながら、対話的に学ぶことの価値や楽しさに気付くようにしました。

「もしも、どうしたい」（上10～11）

第2～6学年を通して、学年の最初に、友達との対話を通じて互いの考えを広げたり深めたりする学習を位置付けました。ここで身に付ける対話の力が、年間を通して児童の対話的な学びを支えます。



「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」を身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

1. 「何ができるようになるか」を明示し、確実に身に付ける。

- 国語の力をしっかりと伸ばすためには、各単元で「何ができるようになるか」を児童自身がきちんと認知することが大切だと考えました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての単元に「言葉の力」を明示し、「何ができるようになるか」を明確にして学習を進め、確実に身に付けることができました。

「言葉の力」（左…単元導入 / 右…単元末：「広告を読みくらべよう」上84～94の例）

単元導入では「何ができるようになるか」を、単元末では学習で身に付いた大切なことをおさえます。

★言葉の力

★表し方のちがいを読み取る

表し方のちがいを読み取る際には、次のような点に注意しましょう。

- ・どのようなことが取り上げられているか。
- ・写真や図などが、どのように使われているか。
- ・書かれていることがらが、どのような順でなされているか、どんなことが強調されているか。

★言葉の力

★表し方のちがいを読み取る

2. 思考を「見える化」して、学びを深める。

- 児童が多様な見方や考え方を働かせて学びを深めるようにするためには、教科書に登場する児童キャラクターがどのような見方や考え方を働かせて学習に取り組んでいるかを「見える化」する必要があると考えました。教室の児童が思考を深める一助となるように、思考の手立てとしてのノートやメモ、カードや図表の例、思考の表れとしての児童キャラクターのつぶやきを随所に提示しました。



思考の表れとしてのつぶやきの例
(下50)

「グループにまとめて整理しよう」
(上12～13)

多数の事柄をカードに書き出し、共通点のあるものをまとめながら類別し、整理します。

■書き出したカードを整理したい

それぞれのグループには、どんな見出しをつけようかな。

もっぴアノが上手になりたい。
習字で5級を取りたい。

運動会でリレーの選手になりたい。
わすれ物をしない。
名前をよばれたら、大きな声で返事する。
漢字をたくさんおぼえたい。
休まずに学校に来たい。

毎朝、犬の散歩をする。
家に帰ったらすぐにお風呂をうがをする。
早ね早起きをする。

たくさんのお話があるときには、つながりのあるものをグループにまとめて、出しを付けて整理してみよう。
まとめるときには、ことがらごうしに共通点やいていっているところがないかどうか、考えよう。

ほかにも、次のような話題について、思いつくことをカードに書き出して、グループにまとめて整理しよう。
・登下校のときに気をつけること
・クラスのお楽しみ会したいこと
・わたしたちの町のよいところ

●たくさんのお話がグループにまとめて整理すると、どんなときに役立つのだろうか。

特色 3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

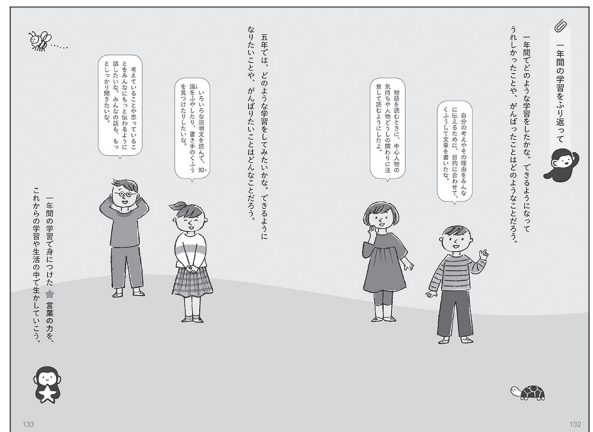
学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

1. 自分の成長に気づき、学び続ける意欲につなぐ。

- 学習を振り返って「できるようになったこと」を確かめ、自分の成長を実感することで、もっといろいろなことにチャレンジしたい、学び続けたいという思いを抱くことができると考えました。単元末と学年末に、学習を振り返る場面を設け、自分の成長を確かめるとともに、さらなる学習への意欲を高めるようにしました。

「一年間の学習をふり返って」(下132～133)

一年間の学習を振り返り、その成果を踏まえて、5年生への意欲を新たにします。(単元での取り組みは、本趣意書 p8 をご覧ください。)

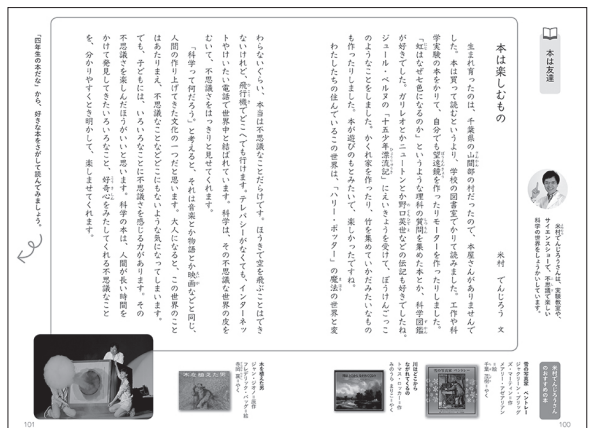


2. 年間を通じた読書指導で、読書に親しむ習慣と態度をはぐくむ。

- 生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくむために、年間を通して読書を促したいと考えました。学習に関連する本を紹介した「こんな本もいっしょに」のほか、随所に読書に関わる内容を設けました。(「図書館へ行こう」上28-31, 「本は友達」上100～107, 「本をみんなにすすめよう」下66～69など)

「本は友達」(上100～107)

サイエンスプロデューサーの米村でんじろうさんの読書体験文、28冊の図書を紹介した「四年生の本だな」、本の読み広げや読書記録を促す内容で構成されています。



2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(頁)
全体	●教材や題材の選定にあたっては、学年を通して多様な内容やテーマのものを取り上げるように配慮し、幅広い知識や教養を身に付けられるようにしました。(第1号)	
こわれた千の楽器 走れ 一つの花 きみに ごんぎつね 世界一美しいぼくの村 世界一美しい村へ帰る	●自他の尊重、人間愛や他者への思いやり、人間の生き方、生命の尊さに触れた文章に触れることを通じて、豊かな情操と道徳心を培うとともに、自他の敬愛を重んじ生命を尊重する態度を養うようにしました。(第1号、第3号、第4号)	上16～25 上58～73 上124～136 下巻頭 下30～52 下110～126 下134～143
もしも、どうしたい 本をみんなにすすめよう	●個々の興味や関心、ものの見方・考え方や価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養うようにしました。(第2号)	上10～11 下66～69
山場のある物語を書こう	●感性豊かに表現することを通じて、豊かな創造性を培うようにしました。(第2号)	上142～147
もしも、どうしたい たしかめながら話を聞こう みんなで新聞をつくらう お願いやお礼の手紙を書こう 学校についてしょうかいすることを考えよう	●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動や、考えの交流・共有により相互理解や合意形成を図る学習活動を通じて、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うようにしました。(第3号)	上10～11 上46～49 上52～57 上74～77 上114～121
図書館へ行く	●図書館を利用する学習活動を通じて、公共の施設を大切に、決まりやマナーを守って利用する態度を養うようにしました。(第3号)	上28～31
水平線 ヤドカリとイソギンチャク 季節の足音 ふしぎ よかったなあ	●自然への親しみや感動、畏敬を表現した文学的文章や、自然や生命の不思議について述べた説明的文章に触れることを通じて、生命を尊び、自然を大切にすることを養うようにしました。(第4号)	上巻頭 上36～45 上108・下70 上110～111 上112～113
ことわざと故事成語 日本のかるた いろいろなことわざと故事成語 くらしの中の和と洋 「ふるさとの食」を伝えよう 百人一首の世界 数え方を生みだそう 日本の短歌	●言語に関わる文化をはじめとした我が国や郷土のさまざまな伝統・文化に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	上80～83 上158～159 上160 下8～21 下54～59 下72～76 下84～96 下156～157
くらしの中の和と洋	●他国の文化や国際協力や国際交流に関わる教材・題材を取り上げ、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。(第5号)	下8～21
一つの花 世界一美しいぼくの村	●戦争や紛争を背景とした物語を読むことを通じて、平和を希求し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。(第5号)	上124～136 下110～126

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 全ての児童が使いやすく分かりやすい紙面の配慮と工夫

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- シンプルなデザイン、色使いを用い、大切な内容がすぐに目につくようにしました。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同一の内容の拡大教科書を発行します。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の研究者に専門的見地からの監修・校閲を受け、全ての児童にとって読みやすく使いやすい配慮をしています。
- 行を見つけたら指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット(点)を示しています。

③ 人権上の配慮

- 話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別による偏りがないようにしました。
- 特にイラストの表現では、身体的特徴の過度な強調は避けるよう配慮しました。

④ 造本上の工夫

- 本文の文字には、本教科書のために特別に開発した教科書体を使用しています。おおらかでしっかりとしたデザインで読みやすいだけでなく、硬筆書写の手本をモデルとしており、文字指導に適した書体です。

- 児童が長期にわたって毎日使用することを踏まえて、特に堅牢な針金綴じで製本しています。
- 通学時の持ち運び等の負担を軽減するため、十分な強度を保ちつつ軽量化した用紙を使用しています。
- 環境に配慮して、再生紙、植物油インキを使用しています。

2. 今日の課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶのか（「言葉の力」）、どのように学ぶか（「学習の見通し」）を明示するとともに、学習過程における児童の活動や思考の流れを具体的に記述しています。指導計画・評価計画が立てやすく、無理なく指導できます。
- 教師用指導書を通じ、学習指導をさまざまな面から支援します。
- インターネットを通じ、児童の学習や先生がたの学習指導に役立つデジタルコンテンツを配信します。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う教材や題材は、他教科等との合科的・関連的指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。（「たしかめながら話を聞こう」上46～49、「みんなで新聞を作るう」上52～57、「お願いやお礼の手紙を書こう」上74～77、「学校についてしようかいすることを考えよう」上114～121、「くらしの中の和と洋」下8～21、「『ふるさとの食』を伝えよう」下54～59、「都道府県の漢字」下108など）
- 既習事項の定着、学習に関連した読書活動、季節に応じた詩や短歌・俳句の音読や暗唱、生活や学習に関わる語彙の習得など、日常的・継続的に取り組むことによってしっかりと学習習慣を育てるとともに、各校の実態に応じて、短時間学習を含めた柔軟な時間割編成や家庭学習に対応できる教材を提示しました。（「漢字の練習」上15・下53ほか、「言葉の練習」上123、「ローマ字の練習」下127、「こんな本もいっしょに」上25・下21ほか、「四年生の本だな」上102～105・下69、「季節の足音」上108・下70、「ことばあつめ」上141・下64など）

③ 道徳教育との関連

- 児童どうしの協働や考えの共有など、対話的な学習活動を通じて、相互理解を深める態度を養うようにしました。
- 自他の尊重や生命に対する畏敬、我が国や他国の伝統や文化の尊重等に関わる教材や題材、学習活動を通じて、豊かな情操や道徳性を養うようにしました。（本趣意書p4「対照表」参照）

④ 各種の教育課題への対応

- 教材や題材の選定や学習活動の設定にあたって、以下の教育課題に対応できるよう配慮しました。
 - 【伝統・文化に関する教育】…我が国や郷土の言語文化について学んだり、伝統や文化に触れたりする。（「ことわざと故事成語」上80～83、「日本のかかるた」上158～159、「いろいろなことわざと故事成語」上160、「くらしの中の和と洋」下8～21、「『ふるさとの食』を伝えよう」下54～59、「百人一首の世界」下72～76、「教え方を生みだそう」下84～96など）
 - 【主権者に関する教育】…学校生活や社会生活における課題を見だし、その解決に主体的に参画する。主体的・合理的な考えの形成や判断、他者との考えの共有や合意形成に取り組む。（「もしも、どうしたい」上10～11、「たしかめながら話を聞こう」上46～49、「学校についてしようかいすることを考えよう」上114～121など）
 - 【法に関する教育】…図書館や図書館の本など、公共物を決まりを守って利用する。学校生活における課題について、役割を決めて話し合い、合意形成を図る。（「図書館へ行こう」上28～31、「学校についてしようかいすることを考えよう」上114～121など）
 - 【情報化に関する教育】…発信者の目的や意図による表現の仕方について考え、情報を見る目を養う。目的に応じた手段や方法を用いて情報を収集し、適切かつ効果的に活用して課題の解決を図る。（「広告を読みくらべよう」上84～94、「くらしの中の和と洋」下8～21、「目的に合わせて調べよう」下22～23、「『ふるさとの食』を伝えよう」下54～59、「調べたことをほろこくしよう」下98～105など）
 - 【環境に関する教育】…自然や環境に関わる教材や題材、学習活動を通じて、自然に対する豊かな感性をはぐくんだり、自然や環境保全の大切さへの理解を深めたりする。（「水平線」上巻頭、「ヤドカリとイソギンチャク」上36～45、「季節の足音」上108・下70など）
 - 【生命の尊重に関する教育】…生命の営みや生命あるものの存在の価値に触れたり、戦争や紛争で失われる生命の尊さについて考えたりする。（「ヤドカリとイソギンチャク」上36～45、「一つの花」上124～136、「世界—美しいぼくの村」下110～126、「世界—美しい村へ帰る」下134～143など）
 - 【食に関する教育】…郷土の伝統食や名産の食べ物について調べ、発信する。（「『ふるさとの食』を伝えよう」下54～59）
 - 【国際理解・平和に関する教育】…国際交流、他国の生活や文化への理解を深める。戦争や紛争がもたらす災禍について考え、平和を希求する思いを深める。（「一つの花」上124～136、「くらしの中の和と洋」下8～21、「世界—美しいぼくの村」下110～126、「世界—美しい村へ帰る」下134～143など）

3. その他の取り組み

① 教育の情報化への対応

- 学習のねらいや学習活動の目的に応じて、さまざまな情報収集の手立ての一つとして、インターネットを活用した学習活動を設定しました。（「『ふるさとの食』を伝えよう」下57など）
- キーボードを用いたコンピューターへの文字入力について取り上げました。（「キーボードの入力と漢字」下109）
- 教科書にQRマークを示した箇所を中心に、インターネットを通じて学習に役立つデジタルコンテンツを配信し活用できるようにしました。（「漢字の練習」上15・下53ほか、「たしかめながら話を聞こう」上48、「言葉の練習」上123、「新しく習った漢字」上161・下158、「ローマ字の練習」下127）
- 教科書と同じ内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

② 学力調査、大学入試改革への対応

- 単元や教材の設定にあたっては、全国学力・学習状況調査をはじめとする各種の学力調査の出題傾向や結果の分析、大学入試改革の動向等を踏まえ、現代の児童に求められる学力がしっかりと身に付くよう配慮しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-112	小学校	国語科	国語	4
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 401・402	新しい国語 四上・新しい国語 四下		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

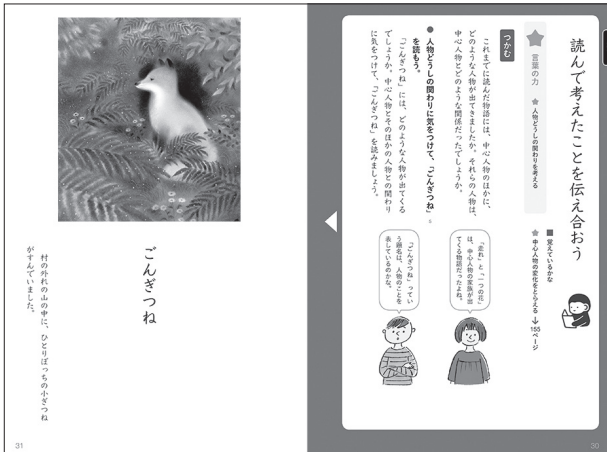
特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

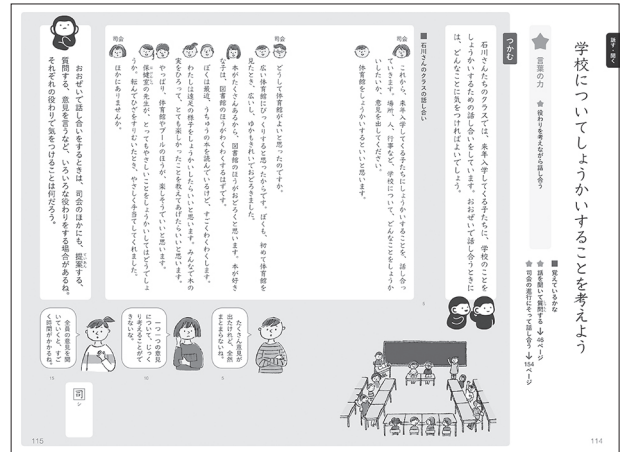
1. 「できるようになりたい」を引き出す単元の導入。

- 課題解決的に学習を展開できるよう、単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成しました。児童の主体的な学習を促すため、「つかむ」段階の充実を図り、既習事項や日常の言語生活とつなげながら、単元の学習で「できるようになりたい」ことを見いだせるようにしました。



「ごんぎつね」導入 (下 30～31)

- 右ページ…既習の物語で学んだことを想起しながら、人物どうしの関わりに着目して読むよう促します。
- 左ページ…「ごんぎつね」本文への関心を高めるよういざないます。



「学校についてしようかいすることを考えよう」導入 (上 114～115)

- 児童キャラクターの話し合い例を参考に、自分たちの話し合いをよりよいものにするためにはどうすればよいかを考えます。日常の言語生活を豊かにするために「できるようになりたい」ことを引き出します。

2. 協働と共有で、共に伸びる。

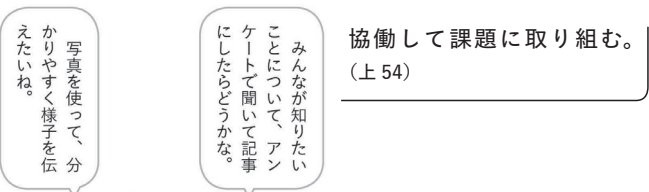
- 友達と協働して学習の課題に取り組むこと、考えを共有して互いに認め合い高め合うこと。この二つを大切にすることで、対話的な学びを実現し、仲間と共に伸びる喜びを味わえるようにしました。



石川さん 木村さん 山下さん 田中さん

共に学び、成長するキャラクター

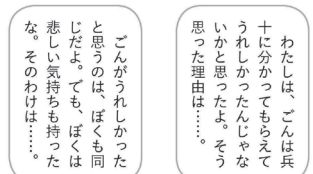
4人のキャラクターが、教室の児童とともに学習に取り組む、成長していきます。



協働して課題に取り組む。(上 54)



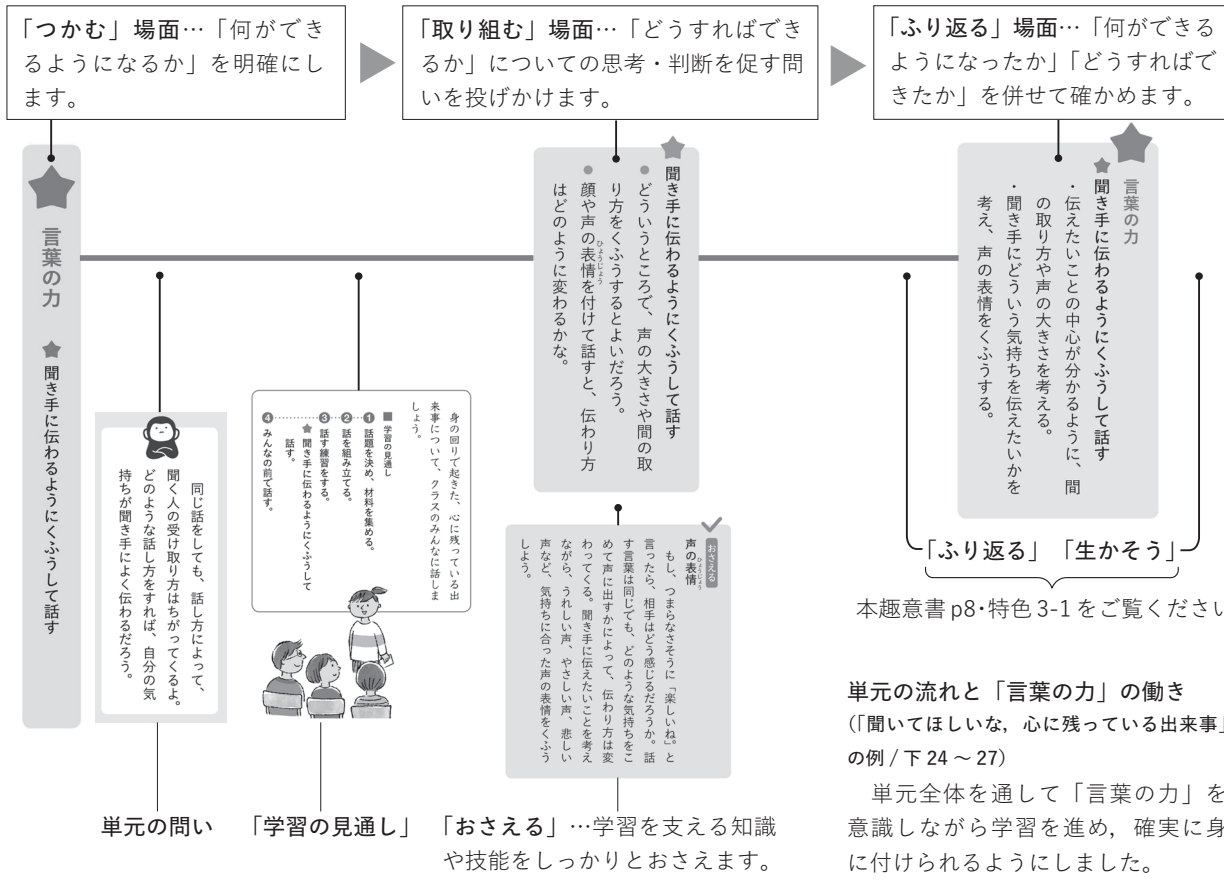
考えを共有し、深め合う。(下 51)



「言葉の力」がしっかり身に付く

1. 「言葉の力」を常に意識し、しっかりと身に付ける。

- 常に「何ができるようになるか」「どうすればできるか」を意識して学習を進められるよう、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各単元に、身に付けたい「言葉の力」を設定し、単元を通して明示しました。



2. 語彙を豊かに広げ、学びを支える。

- 「言葉の力」の基盤となり、全ての学びを支える「語彙」を重視し、豊かに広げる学習を随所に設けました。

言葉単元「言葉で考えを伝える」(下 78 ~ 83)
考えを伝える言葉について考え、語彙を豊かにします。

「ことばあつめ」(上 141 ~ 下 64)
上巻は物事の様子、下巻は人物の性格や行動を表す語彙を集めます。

3. 多様な手立てで学びを深める。

- 「言葉の力」に即した言語活動を設定するとともに、活動のさまざまな局面に応じて思考を広げたり深めたりする手立てとして、ノートやメモ、カードや図表を用いた学習を重視しました。

「くらしの中の『和』と『洋』」(下 8 ~ 21)
「くらしの中の『和』と『洋』について調べて、しょうかい文を書こう。」という言語活動に応じ、本や資料から読み取ったことを、図を用い、観点を明確にしながらか整理していきます。

くらしの中の「和」と「洋」について調べて、しょうかい文を書こう。

▼調べる計画を立て、本や資料を読んで調べましょう。

▼「和」と「洋」をくらべられるように、調べたことを整理しましょう。

・必要におうじて、本や資料の内容を引用してもよいでしょう。

目的に合わせて調べよう ↓ 22 ページ

■調べたことを整理した例

ぞうりどくつの最も大きなちがいは

それがの形

ちがいが生み出す差

【観点】はき方
・ぞうりの良さ
・くつの良さ

【観点】はき心地
・ぞうりの良さ
・くつの良さ

特色
3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

1. 学習を振り返り、国語を学ぶ意義に気付く。

- 単元末の「ふり返る」では、自らの学習の過程を価値付ける視点を投げかけるとともに、「言葉の力」を他教科等の学習や実生活に活用することを促す「生かそう」を設けました。自分が頑張っただけで学習に取り組んだことへの肯定感や学んだことの有用感を高め、さらに頑張ろう、もっと学びたいという意欲を喚起します。

「ふり返る」（「調べたことをほうこくしよう」の例 / 下 105）

学習のプロセスに目を向け、どんなことに気がついたり頑張ったりして取り組んだかを振り返ります。「言葉の力」と対照することで、今後の課題を見いだすことにもつながります。

ふり返る

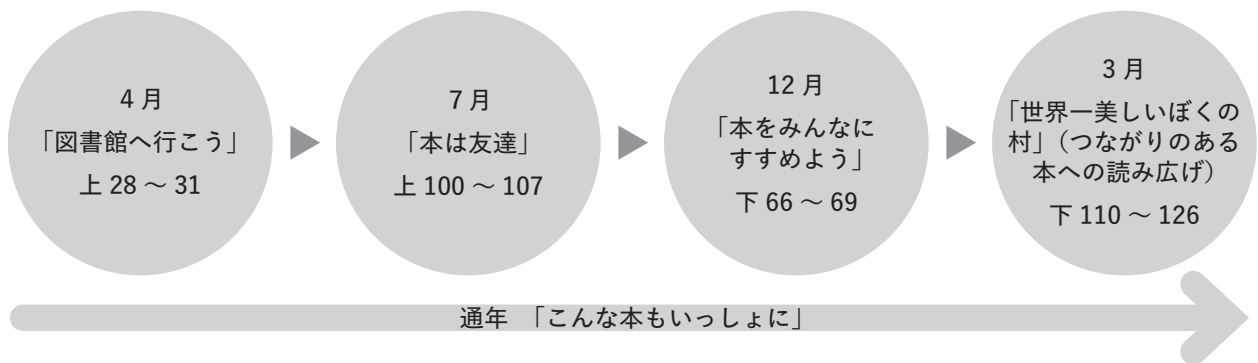
■ 生かそう
社会科や理科の時間に、調べたことをみんなの前で発表する。

★ 言葉の力
☆ 分かりやすく伝える
・伝えたいことがはっきりするように、話す内容のまとめや話し順を考える。
・聞き手に分かりやすいように、間の取り方や声の強弱を考える。
・聞き手の様子を見て、話が伝わっているかどうか、たしかめながら話す。

調べたことを分かりやすくほうこくするために、どのようなことに気がつきましたか。

2. 年間を通した読書指導で、本に親しむ習慣・態度をはぐくむ。

- 年間を通して読書指導に力を入れています。さまざまな本と出会い、自らの世界を広げていく楽しさや喜びを味わうことによって、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。



検討の観点と内容の特色

観 点	特色及び該当箇所例（頁）
1. 教育基本法の遵守	● 教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いました。
2. 学習指導要領の遵守	● 小学校学習指導要領（国語科）に示された各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織・配列しています。
3. 内容・組織	
① 内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通じて段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。 ● 各単元ごとの学習の重点を「言葉の力」として明示し、取り扱う内容が一目で分かるようにするとともに、上下巻の巻頭に「四年で学習する『言葉の力』」（上7～8、下6～7）を設け、年間の学習を一覧して見通せるようにしました。 ● 単元の導入に「覚えているかな」として既習事項の想起を促し、学習に生かせるようにしました。また、「言葉の力」の相互のつながりを確かめたり意識したりできるように、上下巻の付録に「三年で学習した『言葉の力』」（上154～157、下150～153）を、下巻には併せて「四上で学習した『言葉の力』」（下154～155）を設け、それぞれ一覧できるようにしました。
② 程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げました。 ● 学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量とし、領域ごとのバランスにも配慮しました。また、単元ごとに、内容に応じて適切な時数を配当しました。

③ 組織・配列	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月を学習の基盤作りの期間とし、学習の基礎となる事項についての単元・小単元を位置付け、学んだことを以後の学習で活用できるようにしました。(上10～35) ● 学年の最初に年間の学習を見通す場面(上9)、夏休み前と冬休み前に「これまでの学習を振り返って」(上109, 下71)、学年末に「一年間の学習を振り返って」(下132～133)を設け、年間を通して見通しを持つとともに、随時各自の学習を振り返って価値付け、今後への課題を見いだせるようにしました。 ● 領域ごとの学習のつながりに配慮するとともに、領域相互の関連にも配慮しました。
④ 学習過程	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の導入部を「つかむ」、終末部を「振り返る」として、課題解決的な単元の構成にするとともに、各巻冒頭の「国語の学習の進め方」で、課題解決的な学習の進め方を確かめられるようにしました。 ● 単元の導入部に、その単元の「言葉の力」を提示し、「何ができるようになるか」を明確にするとともに、課題に即した「学習の見通し」を提示し、課題解決への見通しを持って学習に取り組めるようにしました。 ● 学習の展開に応じて「言葉の力」に関わる大切な視点や観点を示唆する問いを投げかけ、言葉による見方・考え方をしっかりと働かせながら学習に取り組めるようにしました。 ● 友達との協働的な学びや学び合い、考えの共有の場面を多く設定し、対話的な学びを展開できるようにしました。(上10～11, 上54, 上135, 下18, 下98など) ● 単元末の「振り返る」には、単元で学んだ大切なことを付記した「言葉の力」を提示し、学習の価値付けとともに、今後への課題を見いだせるようにしました。また、併せて「言葉の力」の活用を促す「生かそう」を提示し、学習の有用感を高めるようにしました。
⑤ 資質・能力の育成への配慮	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識及び技能については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着が図れるようにしました。 ● 学習の基盤となる知識や技能を「おさえる」として随所に提示しました。 ● 第3学年で学習した漢字の習得を確かにするため、「漢字の練習 三年で習った漢字」(上15, 下53ほか)を年間9箇所設け、第3学年配当漢字の全ての漢字を取り上げて書けるようにしました。また、各種の学力調査の分析で課題とされている事項を中心に既習事項の習得を確かにする「言葉の練習」(上123)、ローマ字の学習の定着を図る「ローマ字の練習」(下127)を設けました。 ● 語彙を豊かに広げる学習を随所に設定しました。(上80～83「ことわざと故事成語」、上141・下64「ことばあつめ」、上152～153・下148～149「言葉の広場」、上160「いろいろなことわざと故事成語」など) ● 学習上大切な用語を、巻末付録「学習で使う言葉」(上150～151, 下146～147)で一覧できるようにしました。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件にそった課題解決的な学習を通して、必要な思考力、判断力、表現力等が身に付くようにしました。 ● 思考を言語化して考えを広げたり整理したりするツールとしてのノートやメモ、カードや図表を重視し、随所に例示しました(上12～13「グループにまとめて整理しよう」、上50「メモの取り方」、下25「石川さんのメモ」、下95「カードの例」など)。特にノートについては、学習の基盤となるものとして重視しました。(上26～27「国語のノートの作り方」) ● 話例や文例、児童キャラクターの吹き出し等に、学習に関わるさまざまな視点や観点を示唆し、児童が言葉による多様な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現できるようにしました。
⑥ 指導計画作成への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的な指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。(上46～49「たしかめながら話を聞こう」、上52～57「みんなで新聞を作ろう」、上74～77「お願いやお礼の手紙を書こう」、上114～121「学校についてしようかいることを考えよう」、下8～21「くらしの中の和と洋」、下54～59「『ふるさとの食』を伝えよう」、下108「都道府県の漢字」など) ● 2学期制、3学期制のどちらの指導計画にも無理なく対応できるようにしています。 ● 複式指導に配慮して、第3学年と第4学年でなるべく同じ時期に同じ領域の学習を位置付けるように配列しています。

4. 特別支援教育や色覚特性などへの配慮 (ユニバーサルデザイン)

① 特別支援が必要な児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習に集中し、紙面の中のだいたいな情報に着目できるように、シンプルなレイアウトや色使いを工夫しました。 ● 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット(点)を付けています。 ● ローマ字に用いるアルファベットは、特別支援教育の専門家の助言の下で英語教科書用に新たに開発した、文字指導に適したユニバーサルデザイン書体を使用しています。また、4線の幅や線種、色についても、英語教科書で用いられるものを採用しました。
② 色覚の多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> ● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

5. 表記・表現、印刷・造本に関する配慮

① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠し、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発・使用しています。
③ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期にわたる使用、通学時の持ち運びに配慮し、用紙は十分な強度を持ち、かつ軽量なものを使用しています。表紙は耐久性に優れた加工を施し、製本は特に堅牢な針金綴じを用いています。 ● 印刷は鮮明で正確です。 ● 環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。

2. 対照表

該当箇所 (ページ)	図書の構成・内容 (単元名)	学習指導要領の内容				配当時数					配当学期
		知識及び 技能	思考力・表現力・判断力等			知・技	話・聞	書く	読む	計	
			話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと						
上 10	もしも、どうしたい	(1)アイ	(1)アオ(2)イ				2			2	一 学 期
上 12	グループにまとめて整理しよう	(2)イ		(1)ア				2		2	
上 16	○想像したことを音読で表そう こわれた千の楽器	(1)ク		(1)ア	(1)イエ(2)イ			2	6	8	
上 28	図書館へ行こう	(3)オ				2				2	
上 32	漢字辞典の使い方	(1)エ(2)イ (3)ウ				2				2	
上 36	○説明のまとまりを見つけよう ヤドカリとイソギンチャク	(1)カ(2)ア		(1)イ	(1)アオ(2)ア			2	8	10	
上 46	たしかめながら話を聞こう	(2)ア	(1)エ(2)イ				5			5	
上 52	みんなで新聞を作ろう	(1)ウ		(1)アイオ(2)ア				10		10	
上 58	○人物の変化をとらえよう 走れ	(1)オ		(1)ウ	(1)イエ(2)イ			2	8	10	
上 74	お願いやお礼の手紙を書こう	(1)キ		(1)イエ(2)イ				5		5	
上 80	ことわざと故事成語	(3)イ		(1)ア				4		4	
上 84	○表し方のちがいを考えよう 広告を読みくらべよう	(2)イ		(1)ウ	(1)ウオ(2)ア			2	6	8	
上 99	ローマ字の書き方	(1)ウ				2				2	
上 100	本は友達	(3)オ				2				2	
上 110	○詩を読もう ふしぎ / よかったなあ	(1)ク			(1)イエ(2)イ				2	2	
上 114	学校についてしょうかいすることを考えよう	(1)イ	(1)アオ(2)ウ				6			6	
上 124	○物語の題名の意味を考えよう 一つの花	(1)ア		(1)ウ	(1)エカ(2)イ			3	8	11	
上 138	文の組み立てと修飾語	(1)オカ				3				3	
上 142	山場のある物語を書こう	(1)ウオ		(1)アイオ(2)ウ				8		8	
下 8	○くらしの中の「和」と「洋」について調べよう くらしの中の和と洋	(2)イ		(1)イ	(1)ウカ(2)ウ			6	8	14	二 学 期
下 24	聞いてほしいな、心に残っている出来事	(1)イオ	(1)アウ				6			6	
下 28	つなが言葉の働き	(1)カ				2				2	
下 30	○読んで考えたことを伝え合おう ごんぎつね	(1)オ		(1)ウ	(1)エオ(2)イ			3	10	13	
下 54	「ふるさとのおいしさを伝えよう」	(1)キ(2)ア		(1)イウ(2)ア				9		9	
下 62	じゅく語の意味を考える	(1)エオ				3				3	
下 66	本をみんなにすすめよう	(3)オ			(1)カ				4	4	後 期
下 72	百人一首の世界	(3)ア			(1)オカ				3	3	
下 78	言葉で考えを伝える	(1)アカ	言葉	(1)イウ				6		6	
下 84	○日本語の数え方について考えよう 数え方を生みだそう	(2)ア		(1)ア	(1)ウカ(2)ア			4	7	11	
下 98	調べたことをほうこくしよう	(2)イ	(1)アイ(2)ア				9			9	
下 106	同じ読み方の漢字	(1)エ				3				3	
下 110	○読んで感じたことを伝え合おう 世界一美しいぼくの村	(3)オ		(1)ア	(1)イエ(2)イ			3	10	13	三 学 期
下 128	「言葉のタイムカプセル」を残そう	(1)ウ		(1)エオ(2)イ				7		7	
計						19	28	78	80	205	
書写および予備										40	
総計										245	